

ビワ生育情報

第 5 報
千葉県農林水産部
令和3年2月号

本年の開花状況はばらつきが大きいものの、11月の平均気温が高かった影響から、3品種とも開花盛期は平年よりも早く、開花終期は「大房」は平年並み、「楠」及び「田中」は平年よりも早かった。

1 令和3年1月の気象

令和3年1月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は第1から第3半旬は平年より低く、それ以外は平年よりも高く推移した。月平均気温は6.6℃で、平年より0.6℃高く、前年より1.4℃低かった。

氷点下日数は3日であった。最低極温は第3半旬は平年より低く、それ以外は平年よりも高かった。

降水量は第1～第4半旬はほとんどなく、それ以外は平年より多かった。月合計は77mmで平年の95%、前年の38%であった。

日照時間は第4半旬は平年より多く、他はほぼ平年並みであった。月合計は175時間で平年の103%、前年の133%であった。

表1 令和3年1月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温 (°C)			氷点下日数 (日)			最低極温 (°C)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年*1	平年*2	前年*1
1	6.2	6.8	6.6	0	1.2	0	0.5	-0.1	1.5
2	5.1	6.3	9.2	0	1.6	0	0.2	-0.8	2.2
3	5.8	5.9	8.4	1	1.4	0	-1.2	-0.7	2.4
4	6.8	5.9	6.6	1	1.6	0	-0.2	-0.9	1.0
5	8.0	5.6	8.6	0	1.7	0	2.9	-1.5	1.0
6	7.4	5.8	8.3	1	2.2	0	-1.2	-1.6	2.7
平均/計	6.6	6.0	8.0	3	9.7	0	-1.2	-2.8	1.0

※1：各半旬又は1月中に記録した最低気温

※2：1月中に記録した最低極温の30年間平均値

半旬	降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	0	14	0	30	28	26
2	0	15	11	29	28	24
3	4	14	5	25	27	29
4	0	13	19	34	26	20
5	20	13	8	26	27	14
6	54	14	160	31	34	19
平均/計	77	81	203	175	170	132

2 3月の作業

ビワは厳寒期を過ぎて春が近づくと、枝葉の伸長が始まり、果実の肥大が急速に進む。しかし、春先は夜間に冷え込むことがあるため、3月中旬頃までは寒波の襲来に注意する。また、育苗を行う場合、3月になると台木の芽が動き始めるので、接ぎ木は3月中に行う。摘果や袋かけは寒波の襲来がなくなった頃から始める。

3 摘果・袋かけ

摘果・袋かけの作業は、3月以降、寒波の襲来がなくなる頃を見計らって、寒害を受けにくい園から始める。寒害を被った果実は、種子が少なく、形がいびつとなり、成熟前に落果することが多い。袋かけ作業をした後に寒害を被るとその果実が無駄になってしまうので、作業開始が早くなりすぎないように注意が必要である。一方、4月下旬以降まで作業が遅れ、果実の肥大が進むと擦れ傷、虫害などを被りやすくなるので、適期を逃さない様に行う。本年は開花盛期が平年よりも早く、果実の発育はばらつきがあるものの平年より早く進んでいる。そのため、今後の気象次第だが、摘果・袋かけ作業が遅れないよう注意して取りかかっていたきたい。

標準的な着果程度は1果当たり20枚の葉が必要である。摘房が十分でない樹は最終的な着花房率が60%になるように摘房する。着果房数が多い樹では1果房に1～2果残し、着果房数が少ない樹では収量を確保するために3果以上着生させる。3果以上着生させると、葉枚数が適正でも果実が小さくなることもあるので、着果房数が少ない場合や個数を重視するときのみ着生させるようにする。

4 接ぎ木

接ぎ木の適期は、台木の芽が動き始める2月下旬～3月中旬であり、天気安定した時期を選んで行う。気温の低い日に作業すると、接ぎ木の活着率が低下する。4月に入ると切り口から樹液の溢出が多くなり、接ぎにくくなるので、3月中に終わらせる。台木は接木部の直径が1.5cm以上のものを用いる。太いものほど活着後の生育は良いが、あまり太いものは取り扱いに不便である。

5 樹及び花房の発育

ビワの開花期を表2に示した。暖地園芸研究所の開花始期は「楠」が11月10日で、平年より2日遅く、前年より15日早かった。「大房」が11月19日で、平年より6日、前年より16日早かった。「田中」が11月7日で、平年より6日、前年より17日早かった。開花盛期は「楠」が11月22日で、平年より4日、前年より14日早かった。「大房」が12月6日で、平年及び前年より12日早かった。「田中」が11月25日で、平年より8日、前年より5日早かった。開花終期は「楠」は12月11日で、平年より13日、前年より7日早かった。「大房」は1月29日で、平年より2日、前年より30日遅かった。「田中」は12月31日で、平年より7日早く、前年より10日遅かった。

3品種とも開花盛期は平年より早く、開花終期は平年並みもしくは早い。また、開花のばらつきが大きく、幼果の生育状況もばらついている。

表2 ビワの開花期（暖地園芸研究所）

品 種	開花始期（月．日）			開花盛期（月．日）			開花終期（月．日）		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11.10	11. 8	11.25	11.22	11.26	12. 6	12.11	12.24	12.18
大 房	11.19	11.25	12. 5	12. 6	12.18	12.18	1.29	1.27	12.30
田 中	11. 7	11.13	11.24	11.25	12. 3	11.30	12.31	1. 7	12.21

平年：1990年～2019年の30年間の平均

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室
電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>